

# 首都直下地震時の 災害ボランティア活動 連携訓練

## 見学者オリエンテーション

首都直下地震を知り、  
連携を考える訓練ですが・・・

今回の訓練では・・・

- 広域連携の課題の全ては解決しない
- 訓練後に取り組みヒントにしてほしい

## 現在行われているワーク 「首都直下地震の被害を理解する」

- おおよその被害イメージを広域の視点で理解・共有する。
- 広域支援のおおよその方向性をワークを通して理解・共有する。

### つまり・・・

- 被害想定を共有することで、団体間で共通認識が生まれる。
- 被害想定を共有することで、他地域と共通認識が生まれる。

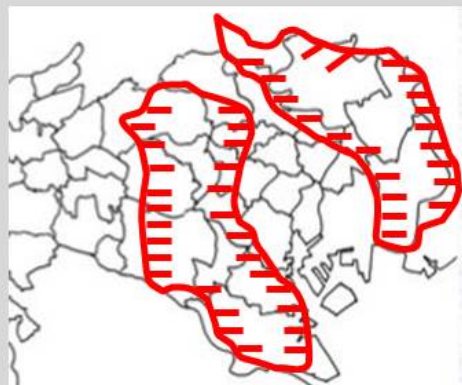
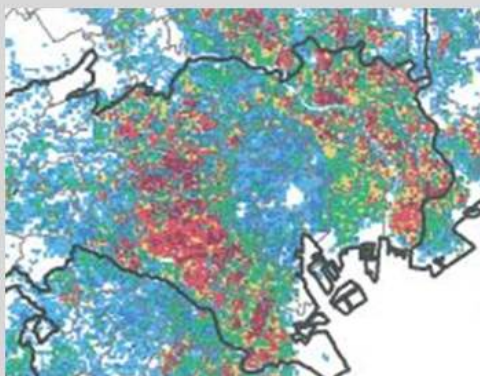
⇒ 団体間連携がしやすくなる。

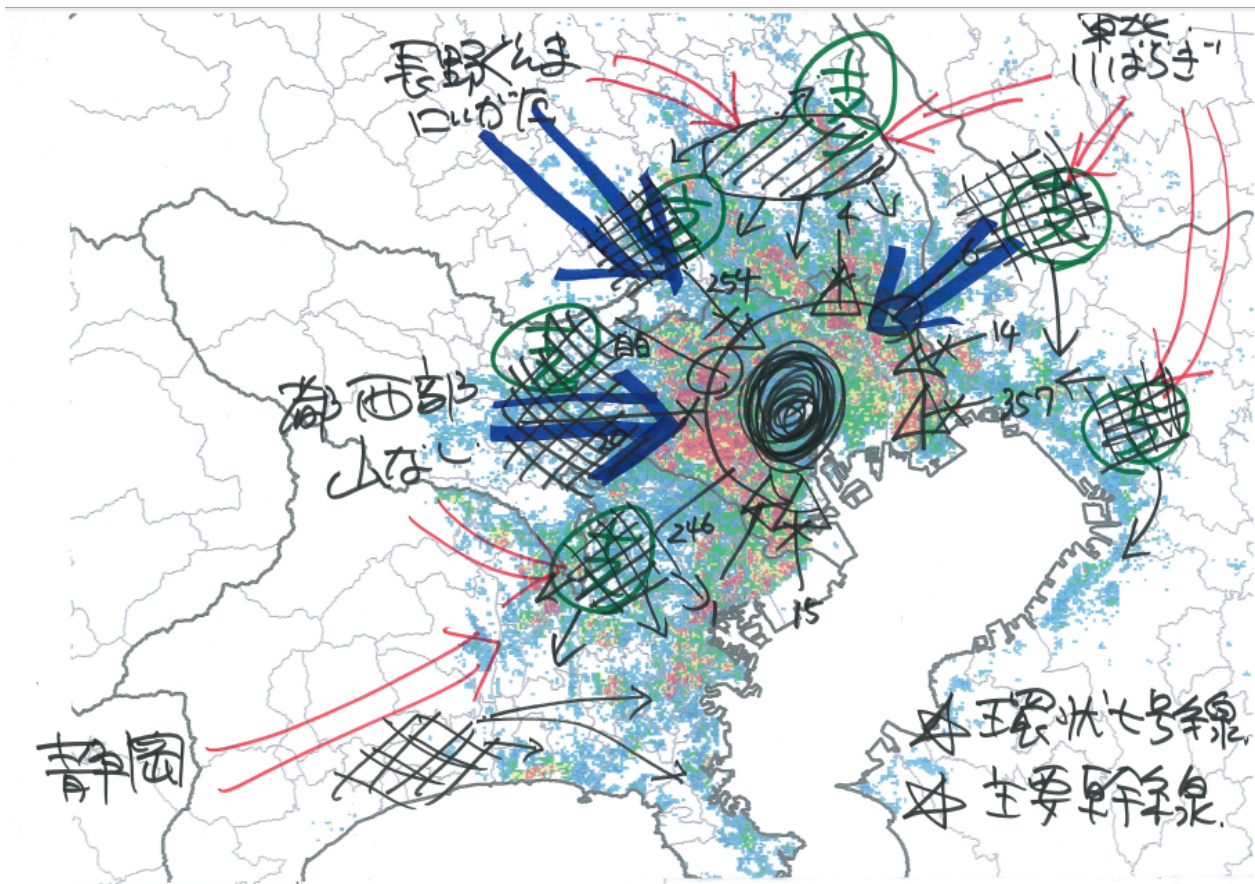
⇒ 地域間連携がしやすくなる。

## (例) 規制されている道路を書きだす

1. 都内の交通規制対象道路 (第一次及び第二次規制の一部含む)
  1. 環七 (環状7号線) の内側全て  
(以下、環七の外側のみの記入でOKです)
  2. 国道4号線 (日光街道)
  3. 国道6号線 (水戸街道)
  4. 国道14号線 (京葉道路)
  5. 国道17号線 (中山道)
  6. 目白通り
  7. 国道20号線 (甲州街道)
  8. 国道122号 (北本通り)
  9. 国道246号線 (青山通り・玉川通り)
  10. 国道254号線 (川越街道)
  11. 国道357号線 (東京湾岸道路)
  12. 圏央道除く全ての高速道路 (記入しなくてOKです)

## (例) 全壊・焼失が激しい地域を書きだす

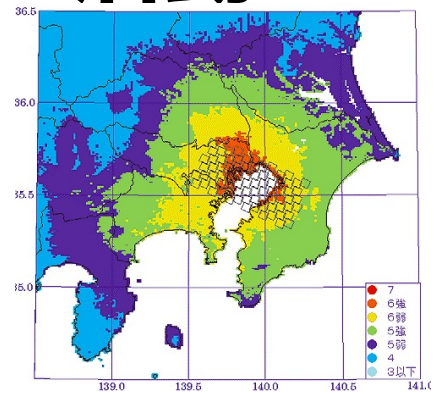




## 見学者の皆さまにお願い

- ワークをしている時間帯は、ビブスを着ているプレイヤーに話しかけないでください。
- 訓練中の写真をSNSなどに掲載しないでください。
- ご質問・ご意見などは、腕章をつけている運営スタッフにお聞きください。
- お荷物(特に貴重品)は自己責任で管理をお願いいたします。盗難・紛失の責任は負いかねます。
- 訓練会場(レクチャールーム)内は撮影自由です。
- 12日(金)は、9時30分に2階会場に集合ください。
- 12日(金)13:00~14:30頃に2階にて「見学者による広域連携に関する意見交換会」を行いますので、ぜひご参加ください。

# 首都直下地震時の 災害ボランティア活動 連携訓練



見学者オリエンテーション  
2日目

## 【訓練の目的】

1 首都直下地震を知る

2 拠点や体制を考える

3 連携を考える

### 話題提供

- ・ 訓練の目的、これまでの成果、東京都内の取組、首都直下地震の被害の特性

### ワーク1「被害を理解する」

- ・ 道路規制や建物被害などを大判地図に書き込みます

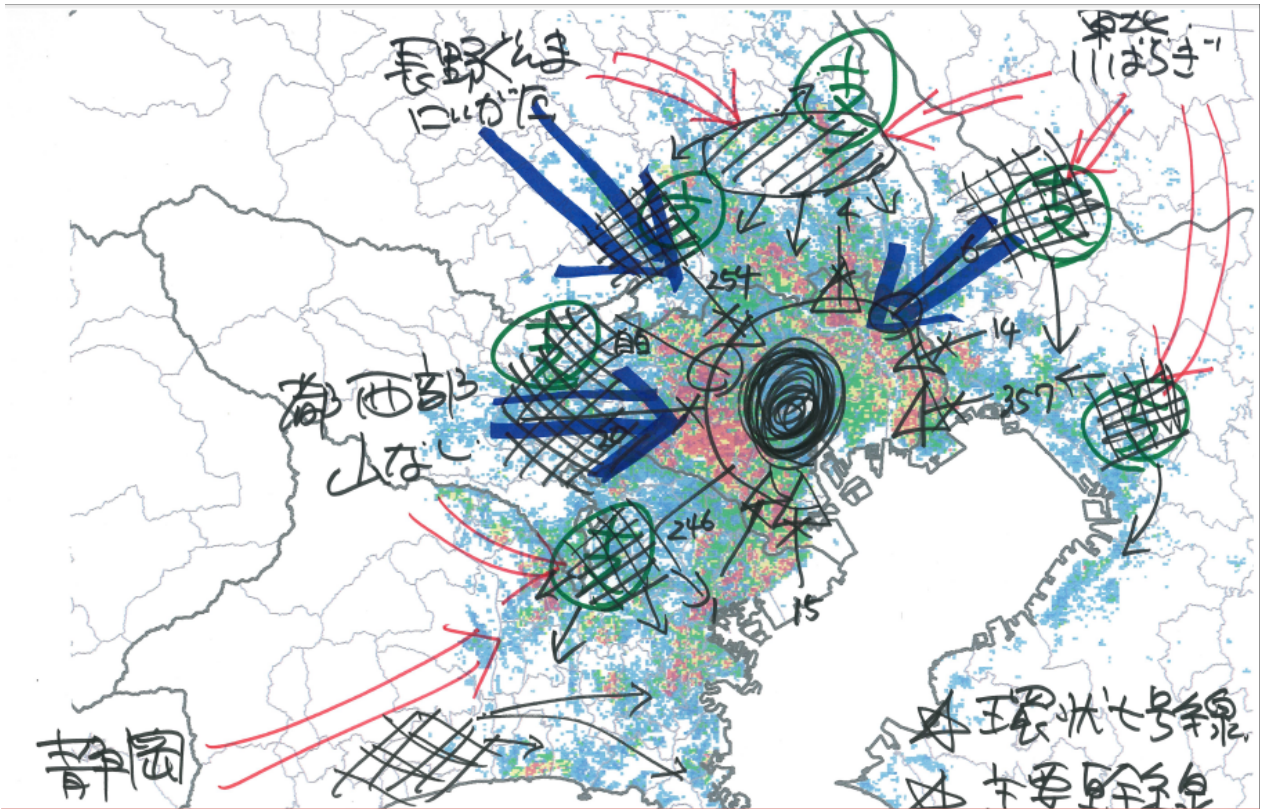
### ワーク2「首都圏域の支援の方向性を共有する」

- ・ 発災2週間後、各地の支援拠点や体制を考え、共有します

### ワーク3「情報共有、連携をイメージする」

- ・ 各地の支援活動の内容を考え、関東圏で共有と連携方策を話し合います。





1階訓練会場のホワイトボードに  
昨日の結果を掲示しています。

## なぜ「連携」なのか？

- 東日本大震災、**数多くの市民活動団体が活動**を展開
- しかし、誰が、どこで、どんな活動をしているのか **把握しきれなかった**
- 情報共有や連携の **しくみや機能が不十分**だった

# 訓練の意義

- 平時から考える、取組む
- 災害を理解する
- 災害時の体制や対応を考える
- 顔が見える関係をつくる
- 情報共有、連携を実感する



## 訓練（ワークショップ）

### 【訓練の企画・運営】

訓練の企画と運営は、  
「ワーキング・グループ」が担当します  
災害救援の実績があるNPO、NGO、社協職員など

**運営スタッフ**

首都直下地震時の災害ボランティア活動連携訓練ワーキング



## 【参加者】

1) プレイヤー: 都内50名、都外40名



2) 見学者: 60名(名札のみ)

## 地域も、立場も様々

- 社協職員
- NPO・NGO
- 生協
- 大学
- 労働組合
- JC
- 行政 など



## 期待すること

### 見学者の皆さまにお願い

- ◆ワークをしている時間帯は、ビブスを着ているプレイヤーに話しかけないでください。
- ◆訓練中は各テーブルをまわって訓練の様子を積極的にご覧ください。
- ◆訓練会場内での撮影自由ですが、訓練中の写真をSNSなどに掲載しないでください。
- ◆ご質問・ご意見などは、腕章をつけている運営スタッフにお聞きください。

## 見学者の皆さまにお願い

- ◆ 建物内禁煙です。喫煙の場合は正面玄関を使って出入りをお願いします。
- ◆ 携帯電話はマナーモードをお願いします。また、通話の際は廊下でお願いします。
- ◆ 昼食は、館内で2階食堂(ココ)か1階正面玄関前ホールでおとりなれます。
- ◆ お荷物(特に貴重品)は自己責任で管理をお願いいたします。盗難・紛失の責任は負いかねます。

## 見学者の皆さまにお願い

- ◆ 施設内の設備、機材にはふれないでください。
- ◆ 12:50~13:00にオペレーションルーム見学を行ないますので、訓練会場にお集まりください。
- ◆ 13:00~14:30頃にこの会場にて「見学者による広域連携に関する意見交換会」を行いますので、ぜひご参加ください。
- ◆ 資料に「氏名」をお書きください。

1階訓練会場に  
ご移動お願いいたします

## 見学者意見交換会グループ分け

1	栗田暢之、芝田雄司、小村隆史、荒木順平、久胡賢次郎、伊藤真由子、山本学、柳澤
2	山口誠史、片山統久、赤城智美、赤田行雄、金子健太郎、山口浩敏、園崎秀治
3	吉田建治、杉村郁雄、藤田知洋、永田信雄、田浦正明、川上浩嗣、金谷内徹
4	明城徹也、尾上昌毅、安藤建治、柳下剛、山田博之、武藤裕子、加藤雅人
5	小林深吾、小美野剛、尾崎靖宏、高橋智明、間瀬 達成、熊谷紀良、岡野谷純

赤字:グループ進行役

「見学者による広域連携に関する意見交換会」

## ○政府・地方自治体とボランティアセクターとの連携について

- ・平成21年度政府総合防災訓練では、政府が行う訓練に、ボランティア関係者が参画した。
- ・東日本大震災では、各地で様々なボランティア活動が行われたが、政府現地対策本部などでは、ボランティアセクターの窓口が明確ではなく、東日本大震災前に関わりのあった団体や個人との情報交換、調整のみとなった。
- ・政府現地対策本部や地方自治体の災害対策本部では、民間支援団体との連携の必要性について理解が得られていなかったために、民間支援団体との接点が限られていた。その結果、被災地で活動している民間団体の活動内容、団体が把握している情報などを把握することができなかった
- ・被災地では、地元社協を中心とした災害ボランティアセンターが設置され、個人などの受入れ体制は整えられたが、地方自治体と災害ボランティアセンターなどの連携は地域によって差が生じた。

## ○ボランティアセクター間の連携について

- ・東日本大震災では、これまで支援活動の経験がない多くのNPOや市民活動団体が支援活動を行った。特に、これまで国内の支援活動に関わりがあまりなかった国際協力NGOが、これまでの活動経験や資金調達力を活かし、活動した。
- ・個人ボランティアの窓口として災害ボランティアセンターなど機能したが、被災地内外の民間支援団体の調整機能は存在しなかった。
- ・NPO・NGO等など外部からの支援者と被災地の災害ボランティアセンターが、情報を共有できる環境を十分に整えることができなかった
- ・被災地から個々の団体による情報発信は行われていたが、情報の集約が十分ではなかった
- ・支援団体間の調整を担う組織や人材が不足していた
- ・被災地の市町村からの情報を県域、支援者全体で共有するしくみがなかった



○東京都災害ボランティアセンター  
アクションプラン作成の上での課題認識

- ①NPO・NGOや様々な専門団体との連携体制
- ②近隣区市町村との協力体制
- ③ボランティアの受入れ体制のあり方
- ④災害VCにおける情報発信のあり方
- ⑤全体状況の把握の仕組みと調整機能

### 話題提供

- ・ 訓練の目的、これまでの成果、東京都内の取組、首都直下地震の被害の特性

### ワーク1「被害を理解する」

- ・ 道路規制や建物被害などを大判地図に書き込みます

### ワーク2「首都圏域の支援の方向性を共有する」

- ・ 発災2週間後、各地の支援拠点や体制を考え、共有します

### ワーク3「情報共有、連携をイメージする」

- ・ 各地の支援活動の内容を考え、関東圏で共有と連携方策を話し合います。

# 地域も、立場も様々

- 社協職員
- NPO・NGO
- 生協
- 大学
- 労働組合
- JC
- 行政 など



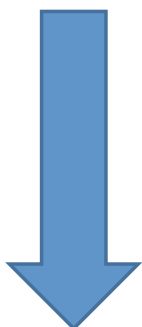
**【連携】**(大辞林参照)

連絡を密に取り合って、  
一つの目的のために  
一緒に物事をする事。

〔同音語の「連係・連繋」は、  
物事と物事、人と人との間のつながりの  
ことである。〕

## 【災害時の連携】

被災者のニーズと支援資源の過不足を  
なくす(減らす)



情報共有を行なう(連携する)  
一緒に活動する

## 【自己紹介】

三つ折りA4用紙に以下をお書きください

所属団体／お名前

大規模災害時に団体として担う機能・活動は何ですか？

首都直下地震時、どのような活動を展開できそうですか？

☆首都直下地震を想定し、ポストイットに以下のアイデアを書きだしてください。

1. 出来るだけ多くのニーズに適切に応じていくために「誰と誰がどのように、どのような連携」が必要か。(クリーム色)
2. どのような情報共有ができると自団体の活動がやり易くなり、スムーズにできるのか。(頻度、内容、方法なども考えられたら良い)
3. 団体としてどのような形で連携や情報共有に協力できるか。(頻度、内容、方法なども考えられたら良い)

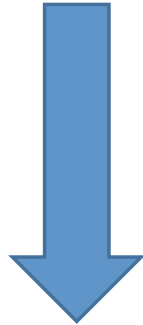
グループで出たアイデアの整理とアイデアをキーワード化してください。

☆もし、余裕があれば・・・

アイデアを整理した後、「連携の情報共有を促進するために必要な支援機能」について検討してみてください。

## 【災害時の連携】

被災者のニーズと支援資源の過不足を  
なくす(減らす)



情報共有を行なう(連携する)  
一緒に活動する